



<https://www.unesco.or.jp/hiroshima/>

わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立つて考えます
- かけがえない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます
(「わたしの平和宣言」は、ノーベル平和賞受賞者たちが起草した6項目の誓い)

ユネスコ大邱協会 ・青少年訪問団が来広

中高生が
親善交流

宮島訪問、韓国人慰霊碑献花、干潟体験 さとうみ科学館見学、姉妹提携調印式

韓国ユネスコ大邱協会および大邱広域市青少年の訪問団34名(うち中高生18名)が11月10日(金)～13日(月)の3泊4日の日程で来広され、広島ユネスコ協会と友好親善交流を行いました。



11月10日(金)広島着・宿泊。11月11日(土)一行は午前中、宮島を散策し、午後から広島市青少年と広島平和公園で合流し、韓国人原爆犠牲者慰霊碑に献花。その後、記念碑などを回りながら、意見交換を行いました。この時期に日韓の青少年が



「平和を築くために、何ができるか」を、ともに考えることの意義は大きいと考えます。11月12日(日)バスで呉市・下蒲刈町の朝鮮通信使資料館御馳走一番館へ。見学後、大柿自然環境体験学習交流館(さとうみ科学館)で大柿高校生徒と合流し、江田島釣附海岸で干潟体験を通して友好親善を深めました。海に面していない大邱広域市の青

平和の鐘を鳴らそう 2023

8月15日(火)、広島平和公園で、『平和の鐘を鳴らそう2023』を開催。松岡盛人会長の挨拶で始まり、渡邊優子理事とファンデルドウス瑠璃さ



んが司会を行いました。平和について広大附属高校1年の谷村咲音さんと鈴木翔太朗さんが、「平和の価値観を発信し続け、多様な考えを認め合う土壌を作りたい」と、広島高校2年の五閑さくらさんは、「未来を生きる子ども達のために核兵器をなくし、軍縮を進め、復興支援や教育などに取り組んでいきましょう」とスピーチしました。ノートルダム清心中・高校合唱部は、「Hey 和」など3曲



せました。来年も多数の会員の参加をお待ちしています。(平和・世界遺産部会長 内田一士)

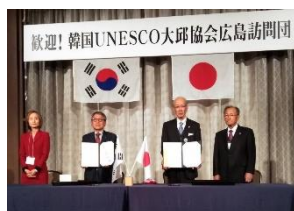
を、素敵なハーモニーで演奏。参加者は慰霊のための黙とうをした後、平和の鐘を鳴り響か

『国際フェスタ2023』が今年も、11月19日(日)、国際会議場地下とその周辺で行われました。広島ユネスコ協会は、市民対象の国際交流・協力活動推進の一員として、同地下のブースで、写真やパワーポイントを使って活動を紹介しました。(国際部会)

国際フェスタ

(国際部会長 政木恵美子)

11月13日(月)午前、帰国前に駐広島大韓民国総領事館を表敬訪問。午後、広島駅で新幹線博多行き出発前に「お別れ会」が開かれました。



の「第7次姉妹協会提携調印式」(協定書の詳細は2面に)と「歓迎会」に参加しました。

広島・大邱 姉妹協定書

大韓民国 UNESCO 大邱協会と日本国広島ユネスコ協会は、大邱広域市と広島市との友好関係を礎に永続的な発展を推進する。両協会はユネスコ理念の下に会員相互の友好と国際理解を一層深めて平和と連帯に貢献するため、2000年姉妹協定締結に締結し、2019年には第六次提携協定に調印した。これまでの成果に基づき、さらに一層の発展を図るため、本協定を継続する。

<交流事業の内容>

第1条 両協会は、次の分野において相互交流と協力に向けて努力する。

- (1)国際理解に関する事項
- (2)教育・文化および芸術・学術に関する事項
- (3)その他、両協会が希望する事項

<交流事業の実施>

第2条 前条に定めた事業の実施に当たっては、両協会が協議し、実施する。

- 1 訪問派遣は相互訪問とする。2024年は日本国広島ユネスコ協会、そして2025年は大韓民国 UNESCO 大邱協会が派遣し、以後相互に派遣する。
- 2 派遣に関する渡航費、滞在費（食費、滞在費、交通費等）は派遣側が負担する。

<有効期間等>

第3条 本協定書の有効期間は4年とする。

なお、有効期間後の継続については、両協会の協議に基づき、合意の上決定する。

<改定>

第4条 締結期間中の改定などについては、両協会の協議に基づき、合意の上決定する。

<使用語>

第5条 この協定書は韓国語と日本語により作成し、両協会に各1分ずつ保有する。

2023年11月12日

大韓民国 UNESCO 大邱協会

会長 申 東鶴

日本国広島ユネスコ協会

会長 松岡 盛人



英語でガイドinひろしま

広島市青少年センターと広島ユネスコ協会は、『英語でガイド in ひろしま』講座を、7月29、30の土・日の両日開催。高校生を中心に28名が参加しました。

初日は平和公園内の記念碑などについて、英語訳のテキストを学習。2日目に海外留学生4名（いずれも出身国はアメリカ）を案内し、被爆したアオギリや峠三吉詩碑、原爆の子の像、原爆供養塔、原爆ドーム、動員学徒慰霊塔など10カ所を案内しました。

ガイド終了後は、同センターで「ふりかえり」や「実習の感想」などを発表し合いました。

英語で語ろう！世界のこと

10月15日（日）、青少年センターと広島ユネスコ協会は、英語で時事問題について学び、少しでも国際性や語学力、対話力を身に付け、自分の意見が言えるきつかけづくりをしてほしいとの



（青少年育成部会長 横佩智恵）

日時 12月17日（日）10時～11時
会場 広島市青少年センター
講師 国連訓練調査研究所
トレーニンングオフィサー
バコゾダ ボフタールさん
高校生発表者 崇徳高校新聞部

高校生国際理解セミナー

企画で、『英語で語ろう！世界のこと』講座を開きました。これには高校生や招待留学生ら15名が参加。受講生のアンケートには「身近に英語を感じる事ができ楽しかった」「まだまだ英語力が足りない」と、自分のレベルを知ることができた」などの声が寄せられました。

☆二つのイベントを終えて☆
『ガイド』講座の現地案内を受けた留学生が全員アメリカ出身だったこともあり、高校生たちは、より英語で話す楽しさを体験できたようだ。『世界のこと』では、英文記事を読んだり、英語でディスカッションすること、異なった見方や考え方があることを知り、自分の意見を持つことの大切さを実感したようだ。

第183回

『ユネスコサロン』

の感想



文化部会・理事 木松裕美
8月26日（土）、自主制作映画監督の山知樹さんを講師にお迎えし、『原爆ドームと私』というテーマで開催されました。映画『ヒロシマの日記』原爆ドーム保存の秘話」が上映され、16歳で白血病のため亡くなった楮山ヒロ子さんの生涯とその日記を読んだ人々が心

50周年記念の集い

当協会は、今年度が設立50年にあたり、これを記念する事業については、本紙116号（7月）でもお知らせしましたが、このうち『記念の集い』（仮称）については次のとおりです。

日時 令和6年3月3日（日）午後1時～（予定）

会場 MSアステールプラザ（中区民文化センター・中ホール）

内容 ①主催者挨拶、来賓祝辞 ②第26回広島ユネスコ

記念誌編集委員会から

50周年記念誌の制作を、明年2月の発刊を目指し進めています。部会の紹介ページで

を揺さぶられ、紆余曲折を経て保存運動へと繋がったという内容でした。今や世界中の人々が訪れるドーム。被爆地広島から発信すべきことはまだたくさんあると感じた講演会でした。↓詳しくは広島ユネスコ協会のHPに掲載されています。

<https://www.unesco.or.jp/hiroshima/>

☆第184回ユネスコサロン

日時 12月9日（土）14時～

会場 MSアステールプラザ7階

（広島市国際青年会館研修室）

テーマ 『太田川 恵みと営み』

講師 安部慶彦さん

（中国新聞社社長 写真記者）

活動奨励賞授賞式 ③広島少年合唱隊記念ミニコンサート

④記念講演会／香川剛寛広島平和文化センター理事長による、ロシアのウクライナ侵攻や中東における市民を巻き込んだ人道上の深刻な危機の問題、広島G7サミットなどを踏まえた平和への道筋についてのお話（演題は未定。本年3月に就任された香川理事長は長い間、外交官を務められ、特に中東問題にも造詣が深く、有益なお話が期待されます）

実行委員長・副会長 古田碩永

は、各編集委員からいただいた原稿・写真を取りまとめ、オンライン会議を開きながら意見を交換。内容充実に努めています。（広報部会長 岡平裕次）